



【理念】 「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」

■発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
■発行責任者 / 事務部長 小野寺 正逸

札幌市西区山の手 5 条 7 丁目 1-1 電話 .(011)611-8111 / FAX.(011)611-5820
ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>

新年のご挨拶



Greeting

院長
菊地 誠志



明けましておめでとうございます。

昨年は巳年、「へびは智恵(wisdom)を表すと云われているので、一年間、精一杯『智恵』をつくり、へびの動きの様に柔軟な発想で新たな試みにチャレンジします」というのを年頭のご挨拶に述べました。この1年間で、一般ICU開設、手術室増設、高機能MRI(3テスラ)設置、ヘリポート設置などのハード面の充実に加え、地域医療支援病院指定、看護師の大幅増員(7:1看護体制開始)、メディカルアシスタント導入、コメディカル増員、総合案内の設置、三角山フェスタ実施など、ソフト面でも大きな進歩がありました。なかでも、地域医療支援病院の指定は、4年前の当院統合開設時から準備を進め、先行病院のご指導と病院あがての努力の結果であり、今後の当院の札幌西部地域における役割を明確化するためにも待ち望んだものです。

12月6日には、ヘリポートの試験運用のため、手稲溪仁会病院から当院ヘリコプターの初フライトがありました。当院は災害拠点病院でもあり、ヘリポートは災害時にも備えたものです。また、災害対応を目的とした自家発電機能

の強化工事も完成間近です。

地域医療支援病院は、地域住民の方々と地域の医療機関に支援していただく病院としての、地域医療支援病院でもあります。みなさんに支えられ、みなさんの誇りと思われるような病院をめざします。今年はまさに、午年で、大きな飛躍の年にしたいと思います。



診療科の紹介

リウマチ科

リウマチ科医長
市川 健司

Introduction to the department-1

当院のリウマチ科は、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、全身性血管炎症候群、ベーチェット病、シェーグレン症候群等の膠原病およびその仲間の疾患に対して専門的な内科的治療を行っています。

関節リウマチは、原因不明の多発性関節炎が起こり、関節の、軟骨、骨、靭帯、腱の不可逆的障害が、時に関節以外の臓器障害が徐々に進行する病気です。消炎鎮痛剤や、副腎皮質ステロイド際のみによる治療では、この障害の進行を食い止めることは困難でした。しかし、メソトレキサートを中心とした治療を中心に、効果が十分得られない場合には、他の抗リウマチ薬や生物学的製剤等による治療を併用することにより、このような不可逆的関節障害をかなり防げるようになってきています。

しかし、これらの治療は、細菌に対する抵抗力を弱めたり、肺や肝臓、造血器等の重要な臓器に副作用を起こしたりすることがあり、注意深く使っていく必要があります。

関節リウマチ以外の疾患では、様々な臓器障害起こることが多く、それらに対して必要に応じて副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤による治療を、注意深く行う必要があります。

当院では、リウマチ専門医である市川医師、竹内医師が中心となり、他の診療科と協力しながらこれらの疾患の診療を行っています。

Information

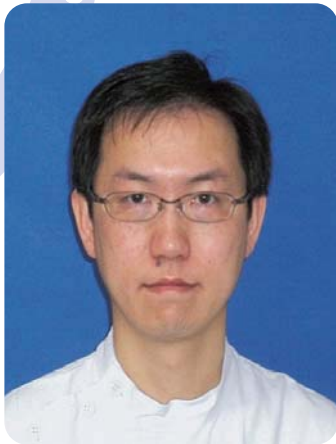
看護師募集中

あなたのキャリアアップを
全力で支援します!!

連絡先

TEL:011-611-8111 (内線 6150)





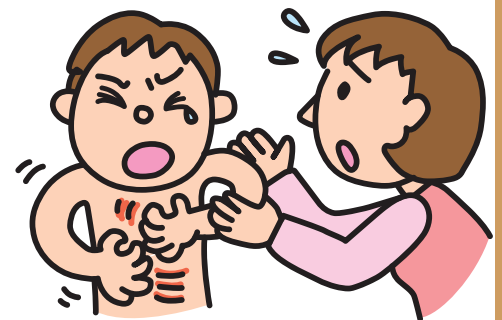
皮膚科

皮膚科医長
廣崎 邦紀

Introduction to the department-2

北海道医療センターの皮膚科は平成22年4月開院時に設置され、もうすぐ4年になろうとしております。皮膚科立ち上げ以来、地域の皆様には大変お世話になり、根付かせて頂いて参りましたことに大変感謝しております。当初は、皮膚アレルギー、皮膚悪性腫瘍を扱える施設を目指して診療に取り組みましたが、最近は褥瘡専門外来を設置し、難治性の褥瘡をWOC、管理栄養士とともにチームで対応しております。皮膚アレルギー・腫瘍専門外来とともに今後とも宜しくお願い致します。皮膚科では、紹介率向上を目的として、完全予約日が設定されております。完全予約制では、受診の敷居がどうしても上がってしまい、ご迷惑おかけしているところでもあると感じております。診療可能な限りは紹介の患者様には今後も対応して参ります。尚、一般外来は現

在、水曜、木曜で引き続き行っております。入院患者では、悪性黒色腫などの皮膚悪性腫瘍や良性腫瘍、水疱性疾患、带状疱疹、褥瘡、蜂窩織炎などの患者割合が多くなっています。学会等においても当院での症例報告等、引き続き行っていき、情報発信して参りたいと考えております。また本年は形成外科が設置となりますが、協力関係を築いてより一層病院に貢献できるよう頑張りたいと考える次第です。どうぞ宜しくお願い致します。



Information

診療科のご案内 【全27科】

心療内科	精神科	神経内科	内科	糖尿病・脂質代謝内科	腎臓内科
アレルギー科	リウマチ科	小児科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
呼吸器外科	心臓血管外科	小児外科	外科	整形外科	脳神経外科
眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	皮膚科	泌尿器科	婦人科
			放射線科	麻酔科	救急科

日本医療マネジメント学会 北海道支部学術集会報告

Report-01

副院長
伊藤 美夫



第 13 回北海道支部学術集会

日本医療マネジメント学会第 13 回北海道支部学術集会を平成 25 年 11 月 3 日に札幌市、札幌国際ビルで開催いたしました。平成 23 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災の教訓と、さらに今後の大規模災害への対応を踏まえ、学会のテーマを「病院のクライシスマネジメント～その時どう対応するか～」といたしました。特別講演には長岡赤十字病院救命救急センター長の内藤万砂文先生に「災害時の病院対応を考えるー救護活動 8 回の経験を通してー」を、ランチオンセミナーには北海道大学病院医療安全管理部長の南須原康行先生に「病院のクライシスマネジメント～その時どう対応するか～」を講演して頂きました。いずれも大変貴重で、興味深い内容の講演でした。一般演題には業務改善、医療情報、クリニカルパス、地域連携、感染管理、医療安全、救急、栄養、薬剤など多方面から 23 題の発表があり、活発な議論がなされました。

病院のマネジメント業務は病院の様々な部門の連携を深め、その内容を向上させる重要な役割を担当していることを改めて痛感いたしました。また学会開催日は文化の日で連休中にもかかわらず 103 人の参加者が集まり、学会は盛会に行われ、無事終了いたしました。



会長 伊藤 美夫



開会式
石川県立音楽堂

今年度の国立病院総合医学会は加賀 100 万石の城下町である、石川県金沢市で 2013 年 11 月 8 日～9 日の 2 日間にわたって開催されました。全国各地の国立病院関係者が、多くの演題を発表する学会ですが、それとともに各種会議・協議会などを通じて、国立病院機構内の横のつながりを深める良い機会でもあります。

今年度は、当院から口演・ポスター合わせて 43 題の発表がありました。

そのうち、ベスト口演賞として、婦人科・齋藤裕司先生、ベストポスター賞として、救命救急センター・高田真理子さん、3-4 病棟・阿部友香さん、麻酔科専修医・富田明子先生、腎臓内科・山村 剛先生、初期研修医・野村俊介先生、初期研修医・村上 剛先生、循環器内科・小松博史先生の 8 名の方々を受賞されました。おめでとうございます！

来年はさらに上を目指して、二桁の受賞者が出るようがんばっていききたいと思います。

今回の学会では、秋の北陸の風情とともに、日本海の幸を堪能された方もいたのではないのでしょうか？来年は港町・横浜で開催され、そして再来年はいよいよ当院が主催で、札幌での開催となります。再来年に向けて、さらに演題の数、そして質を高めていきたいと思えます。

Report-02

臨床研究部長

新野 正明

第 67 回 国立病院総合 医学会報告



金沢城



兼六園



3.0T-MRI 装置導入記念 講演会を終えて

Report-03

脳神経外科医長
安喰 稔

この度、当センターでも 3.0T-MRI（磁気共鳴画像診断）装置を導入する事となり、昨年 12 月 18 日に市立札幌病院放射線科部長の寺江聡先生を御招きして記念講演会を行いました。寺江先生が北大の放射線科

に所属し勤務されていた時、地方にいた私は少し難しい画像があるといつもご相談しておりました。

さて、3.0T-MRI は 1.5T-MRI よりも高磁場で、行える画像診断が増え、今までの画像よりきれいに精密にとることができます。

我々脳神経外科では、脳卒中急性期に造影剤を使わずに脳循環を評価できる ASL 法 (arterial spin labeling) が有用です。しかし、既に導入されている施設での発表では評価は二分されており、今回のご講演で何が問題なのかを理解することができました。また、脳転移の有無についても、今までの画像より高精細に撮像することにより、見えなかった転移が見えてくるといふ、驚きの内容もありました。

今回のご講演により 3.0T-MRI の有用性、問題点も見えてきました。今後、少しでも患者様の治療に役立つ様に活用して参りたいと思います。



北海道医療センターには救命救急センターが併設されています。昨年4月に札幌で4番目、西区で初めての救命救急センターとして開設されました。救命救急センターとは「重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療施設」と定義され、我々は急性心筋梗塞や脳卒中、重傷外傷・熱傷、ショック、けいれん重積、急性呼吸不全、急性肝・腎不全、急性腹症、急性中毒、環境障害（低体温、熱中症）などの重症の患者さんの救急搬送に対応し診療に当たっています。昨年度1年間で心肺停止133例を含む2082台の救急搬送を受け入れ、本年は2400台まで増加するペースになっています。

医療崩壊、特に救急医療の危機がしばしば話題になっています。でもそれを肌で感じていらっしゃる方は少ないと思います。多分イメージするのは夜や休日にすぐ診てくれる病院がない、といった程度かもしれません。なぜならほとんどの方は救急車に乗ったことはないでしょうし、なかんずく救命救急センターに搬送されたような経験をお持ちではないでしょうから。真の「救急医療の危機」という現実は突然予期せず遭遇した深刻な状況下で初めて気付きます。

「たらいまわし」という嫌な言葉がありますが、実は決して遠い国の話ではありません。急におじいちゃんの意識がなくなって名前を呼んでも眼を開けない。お子さん

が階段の上から落ちて頭から血を流している。迷った末に勇気を奮い119番に電話をする。すぐに救急車が到着し救急救命士さんが処置を開始してくれる。「よかった」安心するあなた。でも様子が変わる。出発しない。搬送する病院が決まらないのだという。2回、3回と電話をかけているうちに時間が過ぎてゆく・・・早く・・・どうして？

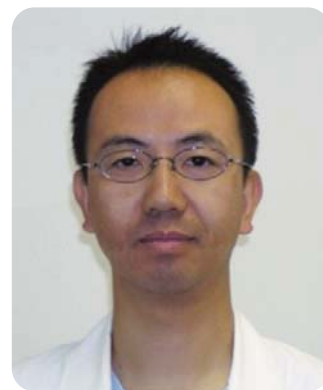
昨年度、札幌では4回以上色々な病院へ要請してやっと行く先が決まったことが950回ありました。年間6万件の搬送がある中でこの数は少ないと思われるかもしれませんが。しかし札幌で1日に3件ずつあるということです。4回搬入要請の連絡をするということは、それだけで20分は現場に立ち往生していることを意味します。われわれは昨年度、その搬送困難症例のうち90件を受け持ちました。

救命救急センターの定義については先に述べましたが、救命救急センターにはその意義を象徴する別の呼び名があります。それは「救急医療の最後の砦」。これからも北海道医療センターは西区における救急医療の最後の砦として、住民の皆さんの命を救います。

救急医療の 最後の砦

Report-04

救命救急部長
七戸 康夫





ドクターヘリの 受け入れについて

Doctor heli

企画課長

早坂 良教

この度、救急体制の更なる強化のため、正面玄関前の駐車場内にドクターヘリの離着陸上（ヘリポート）を設置しました。昨年12月6日には、道央圏の基地病院である手稲溪仁会病院のご協力のもと試験飛行を実施し、傷病者受け入れ時の職員の動き等を確認したところです。

保安要員確保のため、ドクターヘリの受け入れは平日の日中帯のみとなりますが、第三次救命救急センターとして、より迅速に且つ広範囲で傷病者の受け入れが可能となりました。当然、大規模災害時には、防災ヘリの離着陸上としても使用可能です。

今後も近隣地域の皆様のご理解をいただきながら、運用に万全を期して行って参りますので、ご協力をお願いいたします。



職場紹介

感染対策室

感染対策室長
網島 優

Workspace introduction-2

感染対策室は病院内で起きる「感染」にまつわる様々な事柄に対応します。診断や治療に直接携わる訳ではなく、診療や病院運営が円滑に出来る様に支える「縁の下」の部署の一つですが、医療の高度化や社会の国際化が進むにつれて重要性が増している部署であると自負しています。構成員は医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師の4名で、それぞれの専門性を生かして活動しておりますが、専従は感染管理認定看護師1名のみで他のメンバーはそれぞれの業務を行いながら仕事をしています。

主な業務は院内で感染症が広がることを防止することであり、特に冬期はインフルエンザやノロウイルスなど感染力が強い感染症が流行する時期ですので、手洗いなど感染防止対策の再確認や、発症が疑われる患者の方や職員の早期発見などの対応を行っています。また国の方針である、地域における感染対策の重視策に則って平成24年度より西区、中央区西部の有志の医療機関と連携して「西区感染管理ネットワーク」を立ち上げ、年6回研修会を行っています。

通院、入院される患者の皆様やお見舞いの方には、院内に感染症を持ち込まないように、手洗い・消毒などや調子が悪いときのお見舞いを避けて頂くなどの対応をお願いしておりますので御協力の程よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室

地域医療連携係長
堀井 謙司

Workspace introduction-1

地域医療連携室は、「地域医療支援病院」としての役割を果たすため、地域の「かかりつけ医」の先生方と連携を図り、当院が紹介患者様に良質・適切な医療を提供できるよう、その窓口として業務を行っております。

また、医療ソーシャルワーカーと看護師が、外来通院中または入院中の患者様やご家族からの医療相談（介護福祉、在宅医療、経済的問題、転院先の選定 等の相談）に応じ、問題解決へ向けて支援しております。

本年は、「山の手だより」の紙面をお借りし、よくある質問や事項などを簡単にまとめシリーズ化し、皆さま方に情報発信していきたいと思っております。
(通称 「れんけい“ミニ”NEWS」)

れんけい“ミニ”NEWS Vol.1

今回は、病院内の掲示板や、薬のCM等でよく見受けられる「かかりつけ医」の言葉の意味について簡単にご説明します。

一般的に「かかりつけ医」とは、国民が身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師とされております。至極簡単にまとめると、主にお住まいになられている近隣の診療所・医院・クリニックの医師ということになります。(じゃじゃ！簡単すぎ…)

「かかりつけ医」は専門分野の他に、全身にわたり診察する総合医として病院医師に連絡を取る役割もあります。当院では、医療機能の役割分担を目的として、日常的な病気の治療や相談は「かかりつけ医」に先ず受診していただくよう、ご理解ご協力をお願いしております。

ロビーコンサート報告

Event-01

管理課長
若崎 由



10月
25日

ヴァイオリン・チェロ・ピアノによる 『秋の和みコンサート』

演奏者ヴァイオリン	高井 みなと さん
チェロ	加藤 康子 さん
ピアノ	三浦 真奈 さん

高井さんが弾くヴァイオリンの音に感動しました。



11月
12日

『銀の歌声コンサート』

平成4年に発足、21年目を迎えた
男性40名の札幌シルバー男声合唱団。
団員資格が60歳以上。

熟年紳士たちのパワーを結集した銀のハーモニーに元
気もらいました。



12月
25日

『職員による クリスマスコンサート』

恒例、当センター職員が弾く、
ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、
フルートの演奏会。

職員の皆さん。頑張りました。

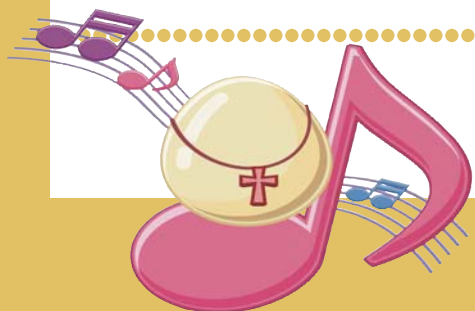
今後の予定

- 1月30日(木) マリンバ・ピアノ演奏会『冬のおとずれ』
- 2月19日(水) フィンランドの民族楽器(カンテレ)演奏会『春を待ち焦がれて』
- 3月29日(土) 札幌医師会合唱団による『混声合唱』

当院では年間をとおして
ボランティアコンサートを
募集しております。

連絡先

TEL:011-611-8111
(内線 5130)



4月に緊張した面持ちで入学式を迎え、看護学生となることを許可された新生は7ヶ月半の専門教育を受けた11月20日にキャンドルライトフォーディングの日を迎えました。

学校職員・病院職員・2年3年の先輩達そして多くの家族の方達に見守られながら式は厳かに進行してゆきました。

菊地誠志学校長から1月に行く初めての臨床実習へのエールを頂き、そしてNBAのバスケットボールの神様と言われているM・ジョーダンの言葉で『Failure is acceptable, not trying, unacceptable 失敗を恐れず、目的を見失わず、仲間と一緒に、ゴールを目指しましょう』と更なる詞を頂きました。田中恵子看護部長からのお詞のあと1年生代表の佐々木君から仲間と共にこれからの道を進みますという決意

表明された。その後ナイチンゲールの灯火より二人の教育主事がその灯火を受け継ぎ、学生達一人一人に託されました。

最後に『患者さんとその家族、仲間から信頼され自身の行動に責任を持つことが出来る看護師を目指す』と全員でナイチンゲールからの光のなかで誓いを立てました。

この日の凜とした気持ちを忘れずに、目標とする看護師になることへ一步一步確実に近づいていくことを強く願います。

Event-02

教育主事

佐藤 くみ子

『キャンドルライトフォーディング』



編集後記

事務部長 小野寺 正逸

明けましておめでとうございます。

当地札幌は年末年始中断的に雪模様で、毎日のように除雪・排雪作業。なんのための休みかと天を仰ぐ年末年始でしたが。

なにはともあれ新しい年が始まりました。

当院にとってはリスタートプランの最終年で、この2年間で行った様々な施策がどのような成果を生み出すかの重要な年になります。引き続き、広報活動やマーケティングなどの分野にも従来になかった手法で取り組んでいきます。

年末に行われたパス大会や院内ポスターセッション、QC大会での発表や、自身の入院経験から、医療は普段想像している以上のスピードで進歩しているようです。マネージメントが追いつかないということのないよう頑張りたいと思います。

本年も広報「山の手だより」をよろしく願いいたします。

外来担当医師一覧

平成26年1月6日現在

外来受付時間

午前 8:30~11:00 / 午後 1:00~3:00 (一部の科のみ)
 ※土・日・祝日は休診 ※内科の午後は完全予約制

診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考		
内科	リウマチ科 (膠原病)	市川	竹内 市川	市川	竹内 市川	市川 竹内	午後は完全予約制	
	呼吸器内科	小倉 中山	—	中山	小倉 網島	—	午後は完全予約制	
	呼吸器内科②	—	鎌田	—	—	鎌田	午前診療のみ	
	糖尿病・脂質代謝内科	中垣 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 中垣	加藤(雅) 担当医	火・水・金曜日担当医は オンコール対応	
	消化器内科	中原(初診) 大原 田中(道)	田中(初診) 木村 武藤(修)	渡邊(初診) 大原 中原	武藤(修)(初診) 木村 馬場	馬場(初診) 渡邊 大原	初診/再診 完全予約制 完全予約制	
	腎臓内科	担当医(初診) 宮本(兼)(再診)	石川(初診)	—	山村(初・再診)	—	中沢(初・再診)	月曜日の担当医は 週交代で完全予約制
	循環器内科	岡本(初診) 本間 佐藤(不整脈)	寺西(初診) 井上(仁) 金子	佐藤(初診) 寺西 竹中	岡本(初診) 小松 藤田	竹中(初診) 寺西 武藤(晴)	—	初診/再診 再診(予約制) 再診(予約制)
		岡本 武藤(晴)(SAS) 佐藤(不整脈)	寺西 井上(仁) 金子	岡本 寺西 竹中	岡本 武藤(晴)(SAS) 藤田	竹中 ペースメーカー外来	—	午後は完全予約制 ※SAS〔睡眠時無呼吸 症候群〕の 専門外来(予約制)
		藤木 新野	菊地(誠)(再診) 土井 宮崎	南 新野	土井 藤木	南 宮崎	—	月曜日午後の 難病相談外来は北海道 難病医療ネットワークからの 紹介患者様に限る
		— —	— 藤木 菊地 (パーキンソン専門外来)	— — —	— — —	— — —	—	午後は完全予約制
外科	外科	高橋(宏)	蔵谷	伊藤(美) 菊地(健)	植村	第4週:高橋(宏) 第4週以外:柴田 第4週:高橋(宏)	月曜日午後 札幌市乳がん検診 火・木曜日午後は完全予約制 第4金曜日はストーマ外来	
	呼吸器外科	井上(瑠)	—	担当医	—	井上(瑠)	午前診療のみ	
	心臓血管外科	—	石橋(初診) 川崎	—	石橋(初診) 森本	—	—	
	整形外科	午前	新納 宮城	宮城	高橋(士) 新納	高橋(士)	宮城 新納	初診/再診 再診
		午後(専門)	—	—	伊東(学) (脊椎・脊髄病外来)	—	—	午後は完全予約制
	リハビリテーション科	高橋(士)	—	—	—	—	—	午前診療のみ
	脳神経外科	午前	安喰	安田	宮本(倫)	牛越	—	—
午後		—	—	—	牛越(脳血管内治療外来)	—	木曜日午後は専門外来 [完全予約制、初診は紹介のみ]	
小児科 (小児腎臓病センター) (小児遺伝代謝センター)	午前(一般)	荒木	長岡	長尾	荒木	田中(藤)	—	
	午前(専門)	長尾(神経・成長発達)	荒木(腎臓)	長岡(腎臓、第1・4・5週) 荒木(腎臓、第2・3週)	田中(遺伝・代謝・ 遺伝カウンセリング)等数週) 長岡(腎臓、偶数週)	長尾(アレルギー)	完全予約制	
	午後(紹介・予約制)	田中(藤)	森井	長岡	森井	長岡	紹介又は予約制	
	午後(専門)	長岡(腎臓)	田中(藤) (遺伝・代謝・遺伝カウンセリング)	若井(脳波・神経、第1・2・3週) 荒木(腎臓)	森井(小児保健)	荒木(腎臓)	完全予約制	
泌尿器科	午前	第2・4月曜のみ 笹村	笹村	担当医	笹村	笹村	午前診療のみ 午後は検査・手術	
婦人科	午前	内田(初・再診) 齋藤(裕)(再診)	大隅(優の小さな手術外来) 担当医(再診)	齋藤(裕)(初・再診)	女性医師外来 10:00~14:00 (受付時間13:00まで)	担当医(初・再診)	木曜日は女性医師による 診察	
午後	—	—	齋藤(裕)/大隅(再診)	—	—	—	午後は完全予約制	
皮膚科	午前	廣崎(予約制) 塚本(予約制)	塚本(予約制)	廣崎 塚本	廣崎 塚本	廣崎(予約制) 塚本(予約制)	—	
	午後(専門)	褥瘡専門外来	廣崎(アレルギー・腫瘍)	廣崎(予約制)	—	—	午後は紹介予約専門外来 [火曜日午後は第3週を除く]	
耳鼻咽喉科	午前	鈴木/前田	担当医	—	鈴木/前田	鈴木/前田	火曜日完全予約制	
午後	鈴木/前田	—	—	—	—	—	—	
眼科	午前	中村/金(ジ)	中村/金(ジ)	中村	中村/金(ジ)	中村/金(ジ)	午前診療のみ 午後は検査・手術	
精神科	午前	担当医(初診)	松永(初診) 荻(再診)	荻(初診) 石井(再診)	担当医(初診) 松永(再診)	石井(初診) 担当医(再診)	当院入院中の方のみ	

※都合により、代診・休診となる場合がございますので、事前にお電話にてご確認ください。(代表 011-611-8111)

北海道医療センターニュース

山の手だよ!

No.10

2014年1月発行



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号

TEL.011-611-8111

北海道医療センター

検索

